

1.団体概要

2.方法

3.結果

# ふりかえり評価 プロセスシート

団体名	クローバーの会@やまがた
設立年	2015年
所在地 <small>*市区町村までで結構です</small>	山形県山形市
活動地域	山形県村山地域
スタッフ数	有給常勤職員 : 1名 有給非常勤職員 : 4名 役員 : 2名 ボランティア : 10名
事業概要 <small>*簡単で結構です</small>	子ども・若者たちその家族の居場所づくり



1. 団体概要

2. 方法

3. 結果

# ふりかえり評価 プロセスシート

<b>テーマ</b> <u>*ふりかえりの対象となる期間や範囲であり、目的ではありません</u>	フリースクール/フリースペースの子ども・若者の関わり方
<b>枠組み</b>	KPT / 田の字法 / 年表
<b>実施日時</b>	2021年12月8日
<b>実施場所</b>	クローバーの会@やまがた 拠点
<b>担当者 (役職)</b>	樋口愛子 ( 代表 )
<b>進行役 (所属など)</b>	鈴木 綾さん ( )
<b>参加者数・ 属性など</b> <u>※具体的に記入してください</u>	<b>参加者：5人</b> <b>代表、副代表、子ども若者支援スタッフ</b>
<b>事前に準備 した資料など</b>	特になし



評価の実施風景

事前準備の内容

事前アンケートの内容など

(レイアウト自由)

# ふりかえり評価 プロセスシート

任意チェックリスト		○
参加性	役員や職員だけでなく、会員・受益者・支援者など多様な属性が参加した。	○
	参加したいと感じている人が参加できるよう、ステークホルダーに広く呼びかけた。	—
必須チェックリスト		○
水平性	立場や役職と意見の重要度を切り離すフラットな場づくりのため、第三者的な進行役を配置した。	○
多様性	ホワイトボードや付箋などを活用して、ステークホルダーの多様な意見や価値判断を、可視化して共有し、違いを顕在化させた。	○
包摂性	事後アンケートを提出した人のうち「自分の声が全く受け止められなかった」と答える人がいなかった。	○
公開性	組織の透明性や説明責任の向上のため、本レポートをWeb上で公開した。	○

## 参加者コメント

\*事後アンケートから転記してください

### ● 気付き・感想・学び

- ・他のスタッフが何を大切にしていたのか、何にモヤモヤしていたのか、スタッフどうしがお互いをどう見ているのかなど、これまでのミーティングだけでは見えてこなかったものが見えた。自分のモヤモヤが他の人の言葉によってその要因がわかり、気持ちの収めどころがじっくり来たりして面白いと感じた。
- ・スタッフそれぞれの捉え方の違いが出て良かったです。
- ・普段のミーティングでは知ることが出来なかった他のスタッフの考えや意見も聞けて良かった。
- ・ダブルループ学習とシングルループ学習というのは初めて聞きました。とても大事なことだと思ったので今後の活動に活かしていきたいと思いました。
- ・「同質の限界」、理解はできても実践することの難しさを感じる。無意識に「同質であれ」と求めている。定期的に「私たちは異質なんだ」と確認し続ける必要があると思った。

### ● これからしたいこと

- ・今回の振り返りについて団体のHPにアップする
- ・今回の振り返りの中で、すり合わせが必要などころや、そのモヤモヤはどこから来ているのかなどを、今後のミーティングで共有していく
- ・定期的にこのような振り返りをやっていく
- ・振り返り時の第三者的な進行役を誰にするか、綾さんと相談して考えたい